

# 「観光経営について考える」

観光学部 教授 野田 健太郎



- 『証券アナリストのための企業分析:定量・定性分析と投資価値評価』 北川哲雄・加藤直樹・貝増眞著、日本証券アナリスト協会編(東洋経済新報社 2013年)
- 『経営戦略とコーポレートファイナンス』 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子著(日本経済新聞出版社 2013年)
- 『図解ビジネスファイナンス』 本合暁詩著(中央経済社 2009年)
- 『CSV経営戦略:本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する』 名和高司著(東洋経済新報社 2015年)
- 『インフォメーション・エコノミー:情報化する経済社会の全体像』 篠崎彰彦著(NTT出版 2014年)
- 『レジリエント・カンパニー:なぜあの企業は時代を超えて勝ち残ったのか』 ピーター・D・ピーダーセン著(東洋経済新報社 2015年)
- 『観光経済学の基礎講義』 中平千彦・藪田雅弘編著(九州大学出版会 2017年)
- 『観光DMO設計・運営のポイント:DMOで追求する真の観光振興とその先にある地域活性化』 日本政策投資銀行地域企画部著(ダイヤモンド社 2017年)
- 『戦略的ホテル経営:戦略的志向性と企業の成果との関係』 金振暁著(学文社 2013年)
- 『観光危機管理ハンドブック:観光客と観光ビジネスを災害から守る』 高松正人著(朝倉書店 2018年)

近年、インバウンドをはじめとした観光ブームが起こっている。それにもとめ、ホテル、旅館、鉄道、エアラインを始め様々な産業で観光経営についての議論がさかんにされている。観光に関する様々なビジネスと云えども、経営に関する一般的な理論によるところが大きいのは当然であるが、一方で、観光独特の様々な要素についても知る必要がある。経営全般については、財務管理、マネジメントに加え、IT分野の影響は大きく(インターネット予約、シェアリングエコノミーなど)、IT関連の様々な理論も知っておく必要がある。

以下では簡単に各書籍の概要を紹介しよう。経営全般については、1が多くのテーマを網羅している。さらに2は経営戦略上の代表例が記載されていて興味深い内容である。3はやや難解なファイナンス分野のテーマを平易に解説しているだけでなく、最新のトピックについても触れ

れており比較的入りやすい本と言える。4~6は最近のテーマに沿って、サステナビリティ、IT(情報)、リスクマネジメントを並べてみた。4は経済的価値だけでなく社会的価値の重要性について解説している。5は情報について分かり易く解説した本で、ITがどのように経済・経営に影響を及ぼしているのかを理解する一助となる。一方で、6はリスクマネジメント面の重要性について触れたもので、危機に直面したときにいかに生き残るかを示したものである。7以降は観光のテーマを中心に書かれたものだが、経済・経営面で観光について詳しく書かれた本が比較的少ない中で、7は幅広いテーマを網羅したもので、8~10は個別のテーマを掘り下げたものである。8はDMOについて実務的な観点が取り入れられているのが特徴である。9は実証分析の視点で、10は危機管理の視点で書かれている数少ない本の1つで貴重である。

## [Information]

### 図書館システムが更新されました

図書館では、資料の目録データ作成から貸出・返却といった、業務管理や利用者サービス用途とした、「図書館システム」と呼ばれるトータルシステムを使用しています。このシステム、実は2018年の夏季休業期間に更新しました。

…あれ、そんなに変わっていないですか?そうです、OPACなどはこれまでの操作性を損なわないよう、画面レイアウトを大きく変化させていません。しかし、いくつかの変化に気が付かれた方もいるはず。実は機能強化も少なくありませんので、右図でその一部を紹介します!

書誌データ出力対象に、これまでのRefWorksに加えて追加  
**EndNoteBasicとMendelyが使えます**

検索語に対する検索結果をリッチ化  
**オンライン辞書表記機能を追加**  
(学内からのアクセスのみ)

配架マップ画像をリンク

特にな所蔵情報の「**仮想書架**」表示機能は、これまではないオモシロ機能です。

スマホで使える機能も  
多いので、ぜひ学習・研究  
にお役立てください。

当該所蔵場所の本棚の配列を画面上で表示させることができます。  
周りにどんな本があるか見つけやすくなりました!

Your Library 第44号(通号103) 発行日 2018年12月7日

編集 舩谷 鋭(図書館副館長) http://library.rikkyo.ac.jp/  
 発行人 中村 百合子(図書館長) 連絡先 TEL 03-3985-2628  
 発行 立教大学図書館 印刷 立教プリンティングステーション



# Your Library



立教大学図書館だより No.44 | 2018.12.07 | ISSN 1883-1303

## 立教池袋キャンパス100周年記念

# はじめ ~立教大学図書館の『最初』を知る~





池袋キャンパスのシンボルとしてそびえる  
2本のヒマラヤ杉の大木も100歳です!

# はじめ ～立教大学図書館の『最初』を知る～

1874年に築地で誕生した立教大学は、今から100年前の1918年に池袋に移転しました。旧図書館(現学院展示館)も、モリス館、チャペル、食堂、寄宿舍(現2号館・3号館)と共に落成し、池袋キャンパスでの歴史を歩み始めました。  
はじめ  
今回は、100周年を迎えた立教大学図書館の3つの『最初』をご紹介します。

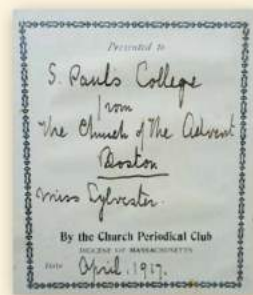
## (1) 図書館に『最初』に入った本ってどんな本?

登録番号00000001番をOPACに入力して検索してみてください。1911年にニューヨークで出版された哲学心理学辞典『Dictionary of Philosophy and Psychology』が出てきます。蔵書票が貼付されており、ちょうど100年ほど前の1917年4月にボストンの英国国教会アドベント教会のシルベスター女史から、聖公会の慈善組織ペリオディカルクラブ(Periodical Club)を通じて立教大学に寄贈された本であることがわかります。立教には、こうしたペリオディカルクラブ(1920年から22年間にわたって寄贈を受けました)の蔵書票や立教に併置された三一神学校の蔵書票が貼付された戦前の洋書が数多く所蔵されています。

現在、図書館の蔵書は約190万冊ありますが、登録番号は00000001番から始まり、大会計基準が整備された1970年代からは年度ごとの一連番号になり、1980年代に業務がコンピュータ化されて以降は51000001から新たに番号付けが始まっています。



Dictionary of Philosophy and Psychology



ボストンの英国国教会から寄贈されたことを示す蔵書票

number	AUTHOR	TITLE
1	Baldwin, James Mark	Dictionary of Philosophy and Psychology
2		
3		
4		
5	Genualden, William	Introduction to philosophy

登録番号00000001番が記された図書原簿

## (3) 初代 図書館長ってどんな人?



初代スパックマン館長



第2代オーヴァトン館長

戦前の図書館長は、外国人の聖公会の聖職者や学者が務めました。実質的に初代の館長と考えられているのは、英国人の司祭で聖公会神学院の図書館を管理していたスパックマン(Harold C. Spackman)です(『図書館雑誌』1930年4月号による)。スパックマン館長は、19世紀後半にアメリカで確立した「図書館学」にかなり精通していたようで、図書館の蔵書整理にデューイ分類表(DDC)を採用することを推進し、さらに戦前としては画期的な「図書館学科」を立教に開設する計画も立案していました。1920年から1939年まで図書館長を務め、蔵書が少ないため、聖公会の慈善組織ペリオディカルクラブに洋書を寄贈してくれるよう本国に依頼した手紙が大量に遺されています。しかし、時局は危急を迫られるようになり、イギリスに帰国、副館長として事務手続きにあっていたオーヴァトン(Douglas W. Overton)氏が館長を引き継ぎ1941年の開戦直前まで館長を務めました。オーヴァトン館長は、戦後は除隊して日本に戻り、アメリカ領事館副領事、聖路加国際病院理事などを務め、立教大学名誉図書館長としては、実業家の森伝次郎氏に寄付を懇請し、図書館は内装を新たに出来ることができました(北川千秋『築地明石町今昔』、小関昌男『メーザーライブラリー資料集』より)。

『立教大学新聞』(1951年7月20日)によると、スパックマン氏は英国生まれケンブリッジ大学卒、1914年に来日、神学校と大学の教授、図書館長を務め、ゴルフの好きなスポーツマンであったと伝えられています。退職後は名誉図書館長の称号を授与されています。戦後はフィリピンのアンデレ神学校で神学を教え、1951年に再来日され図書館関係者と旧交を暖めたとのこと。

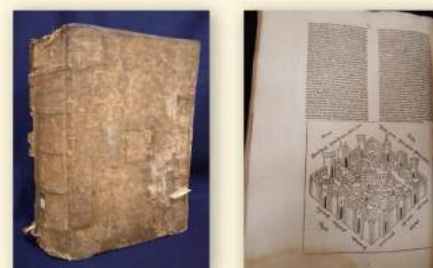
## (2) 日本に『最初』に持ち込まれたインキュナブラって何?

グーテンベルクが印刷術を発明してから、1500年までに発行された刊本はインキュナブラ(揺籃期本)と呼ばれ、西洋稀覯本の世界でたいへん珍重されています。特に有名なものはグーテンベルクの『42行聖書』です。立教にも何冊かのインキュナブラが所蔵されていますが、下記の貴重書『リールのニコラウス聖書全注解 vol.2』は、蔵書票から見て明治の築地時代に三一神学校にもたらされ、池袋校地に移転してから立教大学に移管され、池袋図書館の貴重書庫に所蔵されたものと思われます。日本に持ち込まれた最初のインキュナブラと言われています。

築地時代のキャンパスには立教大学校、壮麗な聖三一大聖堂、三一神学校などが立ち並び、当時の街のシンボルともいわれた六角塔の校舎の3階、4階には書庫もあったという記録がありますので、こうした貴重書も当時から大事に保管されていたと考えられます。



グーテンベルク42行聖書 零葉 (庄司浅水コレクションより)



リールのニコラウス聖書全注解 vol.2 1481年

### 図書館100周年記念展示 池袋図書館B1F展示ギャラリーで 開催中!



限定ブックカバー  
池袋図書館・新座図書館で配布中!

初代スパックマン館長と第2代オーヴァトン館長の文書、立教大学を卒業して図書館職員となり副館長も務めた武藤重勝氏の業務日誌、終戦当日の入館者記録など、100年続く図書館の歴史を感じられる貴重な資料を展示しています。この機会に、ぜひご覧ください。

